

大西連提出資料①（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長）

【全体として】

◎ 実施指針に別添として17のゴールと169のターゲットを盛り込むべき

実施指針および付表は、原文の17のゴールと169のターゲットと必ずしも一致しない。国内で実施済み（中・予定）の施策しか含まれていない。

⇒実施指針は今後の2030年までの大枠の指標。SDGs 原文に盛り込まれた169のターゲットすべての達成が必要。都合のいい目標にしてはならない。

◎ 省庁横断的目標に対する言及が必要

SDGs は「黒船」であり、既存の省庁枠組み、予算編成枠組みでは実施困難な政策の実現が求められている。既存施策を前提にする「積み上げ型」ではなく「横串型」で進めるべく予算措置や政策におけるイニシアチブが必要。2030年までの「日本の中長期目標」という位置づけが必要。

⇒付表案に示された具体的施策案は不十分なもの。省庁ごとのSDGs 関連項目については省庁ごとの、省庁間をまたがる横断的な課題には分野ごとの、全体については円卓会議、などの枠組みを整理し、それぞれにマルチステークホルダーが付表策定に参画できるようにするべき。

大西連提出資料②（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長）

【個別施策（国内貧困対策・格差是正）の視点】

◎ 「貧困」「格差」についての取り組み、数値目標を明記すべき

「あらゆる人々の活躍の推進」「脆弱な立場に置かれた人々」で代替されていると解されるものの実施指針本文に「貧困」「格差」の言葉が出てこない。既存の計画、基本方針等と重なる・足りない部分の補完等の調整が必要。

- ⇒子どもの貧困は盛り込まれているが、「貧困率の削減目標」など、SDGsの項目に合わせた政策目標が抜けている。
- ⇒所得格差等の項目については言及すらない。
- ⇒一億総活躍プランの「給付型奨学金」「同一労働同一賃金」などの政策が盛り込まれていない。

◎ 2030年までの日本の「中長期目標」であることの意味

SDGs 実施指針は公式な「日本の中長期計画」である。「貧困対策」「格差是正」に関しての国の基本方針（計画）等の整備が必要。

- ⇒日本社会の「将来への投資」としての施策であることを鑑みて、PDCAサイクルの仕組み作りや優先的な予算措置をとれる環境整備が急務。